

管理栄養・春井博士、アメリカ心臓学会高血圧会議で受賞

——春井彩花博士（管理栄養士養成課程・客員研究員）らの研究が

米国心臓学会高血圧会議（9月4-7日）で表彰されました——



本学家政学部管理栄養士養成課程を卒業後、昨年大学院家政学研究科食物栄養学専攻を修了し博士（食物栄養学）を取得した春井彩花氏（現管理栄養士養成課程客員研究員）らの研究が、去る9月4-7日に、アメリカ・メリーランド州・ボルチモアで開催された米国心臓学会高血圧学会において、Paul Dudley White International Scholar Awardを受賞しました。

この賞は、米国心臓学会の創設者の一人であり、予防心臓病学の先駆者であるPaul Dudley White博士を記念して設けられたもので、米国心臓学会の各科学会議において、参加各国から選ばれた最優秀抄録の著者に授与されるものです。

【米国心臓学会からの受賞通知(途中省略)】

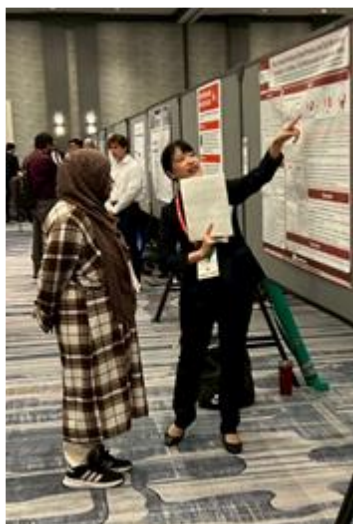
演題は、Effect of Hesperidin Intake on Blood Pressure and Gut Microbiota Composition in 2-Kidney, 1-Clip Renovascular Hypertensive Rats (2K1C 高血圧ラットにおいてヘスペリジン摂取が血圧及び腸内細菌叢に及ぼす影響)であり、春井博士は、この発表の中で、ヘスペリジン摂取がこのモデルの高血圧を緩和することを確認するとともに、腸内細菌叢の変化を観察し、この変化が高血圧緩和に寄与している可能性を示しました。なお、この研究の中核は、昨年度、行吉学園教育研究助成として、学園から指導教員の栗原伸公家政学研究科教授が受けた研究費により行われたものです。



【各国の同賞受賞者たちとの記念撮影の様子】

（向かって右から4人目が春井氏）

春井氏は、この学会において Hypertension New Investigator Travel Award も同時に受賞しました。秋から中国地方の某国立大学に着任する前に、学生時代から続く神女での素敵な思い出が、また一つ増えたようです。



＜ポスター発表では、世界各国からの参加者と熱心に時間いっぱいディスカッション＞

日頃の研究成果を発表してきました。受賞した春井さん、9年前ヘスペリジンの研究に最初に着手した倉本（山岡）鮎奈さん、この研究でも活躍した現修士2年生の小椋美歩さんをはじめ、これまでのすべての院生たちに感謝します。

春井博士の話：このたび受賞できましたことを大変光栄に思います。栗原研究室の皆さまをはじめ、支えてくださった多くの方々に心から感謝しています。食を通じて人々の健康に貢献できるよう、これからも研究に励んでまいります。

栗原教授の話：今回春井さんが受賞したことを大変うれしく思います。20年来、様々な食品・食品成分による高血圧予防の研究を行ってきましたが、この学会にも2007年からコロナの時期を除いてほぼ毎年参加し、歴代の院生たちが



【同時受賞した Hypertension New Investigator Travel Award の賞状】